

先週のクリスマス礼拝メッセージ(2021年12月19日) ベン牧師

「変えられた心」 ルカによる福音書 2:15-20

今日は天使の知らせを聞いた羊飼いたちが、「さあベツレヘムへ行こう」と出かけて行ったところから始まります。ベツレヘムは当時小さな村でしたが、それなりの家があり人が住んでいました。その中から、イエス様誕生の場所を見つけるのは大変だったと思います。実際に彼らは「乳飲み子を探し当てた。」と記されていますから、一軒一軒尋ね歩いたことでしょう。当然ながら、その度に天使の知らせを説明して探し歩いたに違いありません。

ついにその場所を探し当てた羊飼いたちでしたが、ベツレヘムの人々は、そのニュースを聞いて「不思議に思った。」(18節)とあります。常識から考えると、天使が現れたということ自体、不思議に思うことです。しかし人々が聞いたのはそれだけではなかったはずで、羊飼いたちは天使から聞いた、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」という言葉も伝えたはずで、しかし誰一人として羊飼いと一緒に駆けつける人はいなかったのです。

同じようなことが現代でもあるのではないのでしょうか。

このクリスマスシーズンのことだけを考えても、様々な集会を教会は計画し、人々に福音を伝えようとします。しかし、誘われても自分とは関係ないと無関心な人、あるいは来て、聖書の言葉を聞いても心を閉ざす人、その反応は様々です。

羊飼いたちは、イエス様のもとに来て礼拝しました。

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」(20節)

ここに登場する羊飼いたちは、雇われの身で、貧しく、社会的な地位も低い人々でした。そして毎日が重労働で、日々生活していくのが精一杯だったことでしょう。そんな彼らに、天使は第一声「大きな喜びを告げる」というのです。天使の言葉を信じた彼らは、救い主と対面し、彼らの心は喜びと賛美に満たされました。

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」(20節)



帰って行った場所は今までと同じ、野宿する羊飼いと状況でした。それなのになぜ、喜びに満たされたのか、それは彼らの心を変えられたからです。

今の日本は格差社会と言われていますが、世界の国々から見れば、ほとんどの人が裕福な生活を送っているということをご存知でしょうか。車もあり、家電も揃って、教育も何の制限もなく受けられます。世界の多くの国々で、多くの人々がそれらのものを手に入れるには程遠い生活をしているのです。しかし、その裕福な日本人は幸せを感じているのでしょうか。

お金があれば便利な生活はできるでしょう。しかし、幸せはお金では手に入れることはできないのです。一時的には喜んでも長続きはしません。

神様はそんな私たちに本当の喜びを与えるために、救い主を送ってくださったのです。

ところで、皆さんの中に、死ぬために生まれた人はいないでしょう。しかし、イエス様は、十字架にかかって死ぬためにお生まれになったのです。なぜなら、神の御子が身代わりとならなければならぬほどに、私たちの心は醜いからです。道徳概念や人間の努力では自分を変えることはできません。ましてや、心を聖めるなどとは不可能です。神の御子がこの世に来てくださって、十字架で私たちの罪を負ってくださるのでなければ、私たちの心は変えられません。

羊飼いたちは、このイエス様にお会いしたからこそ、心を変えられ、今までと同じ環境の中に喜んで帰って行ったのです。

私たちも同じではないのでしょうか。状況の変化で得られる喜びは一時的で、時と共にその喜びは失せ、新たな不平や不満が生まれてきます。しかし、私たちの罪を赦し、心を新しくし、天の御国の希望を与えるという、「福音」を信じる時、私たちの心は変えられるのです。

そのためにイエス様はこの世に来てくださいました。その救い主の誕生をお祝いするのがクリスマスです。

さらにいうなら、このイエス様が私の心にお生まれになるという経験をした者のみが、本当のクリスマスをお祝いできるのです。イエス様の招きに応答して、私たちもイエス様を心にお迎えし本当のクリスマスをお祝いしましょう。

